



慶應義塾大学ビジネス・スクール

昭和生命保険株式会社と平成生命保険株式会社の企業合併

5

— その後 —

その後の現場から

昭和生命と平成生命は20XX年2月1日に統合を発表、同年10月に「合併覚書」への調印を経て、20XY年12月26日に金融庁長官より合併の認可を取得した。統合を発表してから約2年間の準備期間を経て、当初の予定より3ヵ月早い20XZ年1月1日に昭和生命と平成生命は合併し、昭和生命と平成生命株式会社が誕生した。

10

正月早々、金屏風の前でがっちり握手をした二社の元社長の姿が新聞のトップを飾った。旧昭和生命の高木社長のコメントは以下だった。

15

「昭和生命と平成生命の誕生を役職員一同で祝いたい。昭和生命と平成生命の歴史と伝統を継承する一方で、日本で一番若々しい生命保険会社、日本で一番元気な生命保険会社として、お客様からもっとも信頼される生命保険会社を目指していく。社員の皆さん方一人一人、大きな夢と希望をもって働いてほしい。二つの会社一つになって、一社では成し遂げられなかったことが必ずや実現できると信じている。」

20

銀行系列を超えて歴史ある大手生保同士の合併が果たしてうまくいくのか、シナジー効果が生まれるのかについて業界内外から注目を浴びていた。

20XX年の統合発表時、平成生命は総資産で業界5位、昭和生命は同じく業界8位であり、両社とも財務内容が良好であることから、業界における勝ち組の会社であると言われていた。しかし、不透明な経営環境のなかで、大手生保といえども生き残ることができるかどうか、誰にも分

25

本ケースはMBA学生 中谷佳史、法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科准教授 高田朝子によって作成された。会社名、個人名および事業に関する事実は偽装されている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 中谷佳史・高田朝子（2010年5月作成）